

**【演題】**

医療と介護を繋げよう  
～アセスメントシート・連携ミーティング～

**【代表研究者】**

天野 優佳

**【分担研究者】**

八反丸 哲史、塩屋 弘行、松野下 祥、瀬戸山 沙織

**【はじめに】**

介護支援専門員との連携の在り方を考え、深めていく為の取り組みを報告する。

**【問題】**

当院SWの立場から、これまでの連携において不十分だと感じるケースがある。電話や書類だけのやり取りになってしまう事や、状態が変化した患者の場合、退院前になって自宅退院に消極的になるケースなどである。そこでSW側からも、もっと積極的に連携を図る必要があると考え、今回連携を深める事を目的に「アセスメントシート」の使用と「連携ミーティング」を考案し実施した。

**【対象】**

平成24年4月から平成25年3月までの当院2階回復期病棟に入院した患者。

**【方法】**

1. 入院時に「アセスメントシート」を使用し介護支援専門員から情報収集を行う。
2. 退院前に「連携ミーティング」を実施し、介護支援専門員に患者のリハビリ訓練の様子を見てもらいながら状態確認を行う。
3. 介護支援専門員へアンケートを行い、実施前と実施後でアンケート結果の比較を行う。

**【結果・考察】**

介護支援専門員を対象とした実施後アンケート結果から・PT・OTにも直接質問が出来た。・患者訪問しやすくなった。等の意見が多く寄せられた。アセスメントシートの使用と連携ミーティングの実施を通して、お互いに必要とする情報を把握しやすくなり、患者の状態に対する認識の共有ができた。顔と顔を合わせ、まずは相手を知り、コミュニケーションを重ねることが良い連携に繋がっていくのではないかと考える。